

令和7年度
京都市立花背小中学校

学校評価アンケート (後期) 結果

学校教育目標

「確かな学力、豊かな心、健やかな体」を身に付け、次代を生き抜く子どもの育成」
—郷土を愛する子どもを地域とともに育てる—

アンケートのご協力ありがとうございました。結果と分析についてお知らせいたします。

確かな学力について

□→分析 □→改善点

- ①(めあてをもって学習を進める)項目では、児童生徒の値がⅠ期(3.42)Ⅱ期(3.08)Ⅲ期(2.56)となっており、全体的に低下傾向でした。Ⅲ期は0.66低下しました。「めあてを意識した授業展開になっていない」「児童生徒が「めあて」がどういうものか理解できていない」「めあてが形骸化している」と考えられます。
- ②(協力して学習を進める)項目では、Ⅰ期が3.58と前回よりも0.16上昇しましたが、全体としては0.23低下しました。Ⅰ期では、友だちの意見を大切にしながら学習を進める姿を教師が積極的に認めるようにしたことが、よい結果につながったと考えられます。
- ③(家庭学習)の項目の値は、児童生徒2.88と前回より0.28低下しました。Ⅲ期は、前回(2.56)と比べると今回は(2.67)値が上がっていました。Ⅰ期とⅡ期では、教師から出される課題で精いっぱい、家庭学習に主体的に取り組めていないように思われます。Ⅲ期では、進路実現における家庭学習に計画的に取り組むことが、できたことが、数値に表れたと考えられます。
- ④(言語表現)の項目の児童生徒の値(3.03)は、前回に比べ0.22低下しました。自分の考えが、伝わらないことを自覚し始めていると考えられます。授業中、朝学活、終学活と「考えを伝える機会」はたくさん用意していますが、まだ自信がないように感じます。



- ①教職員は、「めあて」「ふりかえり」「まとめ」とはどのようなものか、児童生徒に丁寧に説明していきます。またそれらを関連づけた授業づくりを意識していきます。
- ②「各自の学び」を「みんなの学び」につなげていけるように、安心安全な人間関係を築いていきます。
- ③自主学習の例を示したり、児童生徒のノートを紹介したりすることで、家庭学習に対する意欲を高めていきます。学校として、自己決定・自己選択ができるような家庭学習のシステムを構築していきます。
- ④学年に応じた話型や話し方の基本を提示します。話し合いや発表の後に、友だちの意見や考え、伝え方のよいところを認め合う時間を設定していきます。

「豊かな心」について

- ・⑤(思いやり)の項目では、児童生徒(3.30)は高い傾向にありました。Ⅱ期(3.50)は前回よりも0.15上がりましたが、Ⅰ期は0.25、Ⅲ期は0.67下がりました。全体として数値は高く、人権学習や縦割り活動、期の取組が良い結果に繋がっていると考えられます。Ⅲ期は、文化祭以降に縦割り活動がなかったことが変化の一因と考えられます。
- ・⑥(安心して思いを伝える)の項目では、Ⅱ期の児童生徒の値(3.17)が0.35上がりました。Ⅰ期(3.08)は0.17、Ⅲ期(3.00)は0.44下がりました。保護者は0.24上がりました。学校生活の中で児童生徒が「自分の思いが伝わっていない、受け止めてもらえていない」と感じてしまっている姿が見られます。
- ・⑦(あいさつ・言葉遣い)の項目では、児童生徒(3.27)に対して教職員(2.87)に低い傾向がみられました。望ましい挨拶や丁寧な言葉について、児童生徒と教職員で認識のずれがあるように思われます。
- ・⑧(友だちのよさ)の項目の評価は、児童生徒(3.64)保護者(3.58)教職員(3.36)と良好な傾向にありました。少人数で人間関係が密接であること、縦割りや期の取組で互いの良さを認め合う時間を大切にしていることが、良い結果となって現れていると思われます。
- ・⑨(自分のよさ)の項目の評価では、児童生徒の値(3.03)が前回よりも0.28上がりました。保護者の値(3.32)も0.43上がりました。道徳科での「よいところ見つけの学習」で自分のよさを言葉にして伝えてもらう取組を実施したことが、良い結果につながったと考えられます。

⑤人権学習や文化祭以降の縦割り活動、期の取組を、さらに充実させていきます。

⑥児童生徒の思いを一旦受け止め、寄り添う姿勢を教員がもてるようにしていきます。その上で児童生徒が安心、納得できるよう、教職員が丁寧な対話をしていくことを心がけます。

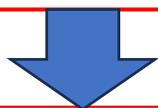
⑦学校全体、期、学級で「心を込めた挨拶や丁寧な言葉遣い」の基準について児童生徒と一緒に考えていけるようにします。

⑧縦割りや期の取組で、互いの良さを認め合う時間をさらに充実させていきます。

⑨道徳科の学習や生き方探究パスポートを活用し、児童生徒が互いのよさを実感できるような取組を充実させていきます。また、教職員が積極的に児童生徒のよさを言葉にして伝えていきます。

「健やかな体」について

- ・⑩(運動や遊び)の項目では、保護者(3.05)が0.17上がりました。教職員も一緒に遊び、1~9年生が一緒になって遊ぶ姿が増えたためと考えられます。
- ・⑪(安全)の項目では、保護者(3.37)が0.41上がりました。様々な状況を想定し、避難訓練を授業中や休み時間に実施し、緊張感をもって訓練に参加することができたことをH・Pや学級通信で伝えることができたためと思われます。
- ・⑫(規則正しい生活)の項目では、児童生徒(2.97)が0.44下がりました。Ⅲ期の値(3.11)は、前回(2.57)より値(0.54)が上がりました。ゲームや動画視聴により、生活習慣が乱れていることを自覚している児童生徒が増えたと考えられます。Ⅲ期は、進路実現に向けて自己調整ができるようになったためと考えられます。
- ・⑬(食事)の項目は、児童生徒(3.52)、保護者(3.26)、教職員(3.40)と全体的に高い値でした。数値は高いものの、3者の数値に違いがあり認識のずれが気になります。



- ⑩今後も、体育科の取組や休み時間の遊び、全校遊びの取組を継続させていきます。
- ⑪アンケート項目を「災害や事故などが起こった時にどう行動すべきか知っている」などに変え、避難訓練を実生活に生かして、安全に対する意識を高めていけるようにしていきます。
- ⑫「食事を3食、食べているか」「毎日歯磨きをしているか」「8時間以上睡眠できているか」など、具体的な目標を示し、評価できるようにしていきます。
- ⑬「会話して食事をしているか」「栄養バランスを考えて食事できているか」など、具体的な目標を示し、評価できるようにしていきます。

「郷土を愛する子どもを地域とともに育てる」について

- ・⑭(新しい見方・考え方)の項目では、児童生徒のⅠ期(3.75)が前回より0.15上がりました。Ⅱ期(2.67)Ⅲ期(2.78)は、前回に比べ低い傾向にありました。花背学習が「体験活動」「調べ学習」中心の取組になっており、「探究的な活動」になっていないことも原因の一つと考えられます。
- ・⑮(地域のよさ)の項目では、児童生徒は(3.12)前回より0.38下がりました。今年度から花背学習のカリキュラムが変わり、戸惑いが見られたことも影響していると考えられます。
- ・⑯(他地域での発信)の項目では、保護者(3.16)が0.23上がりました。H・P や学級通信などで児童生徒の取組を保護者に伝えることができたことが、数値に現れたと考えられます。
- ・⑰(児生会・縦割り活動)の項目の値では、児童生徒(3.27)が0.29下がりました。委員会活動で頑張っている良い姿が見られるのに、児童生徒自身が実感できていないように思われます。



- ・⑭「探究的な学習」の進め方について教員研修を行い、児童生徒も探究学習の進め方についてよく理解した上で、花背学習を進めていけるようにします。
- ・⑮花背学習が9年間を通したカリキュラムであることを、保護者、児童生徒に丁寧に説明し、学習を進めていけるようにしていきます。
- ・⑯花背学習での他地域への発信や宕陰校との交流を、充実させていきます。
- ・⑰委員会活動の頑張りを児童生徒が伝え合えるような取組を充実させていきます。文化祭以降も継続して縦割りチームを使った取組を設定できるようにします。

学校運営協議会より

- ・児童生徒が安心して思いを伝えられるように、支援して行ってほしい。そのために、小規模校の特性を生かし、教職員と児童生徒、児童生徒同士の信頼関係を深め、児童生徒が本音で伝え合える人間関係作りを、大切にしていってほしい。
- ・規則正しい生活習慣の定着において、家庭との連携を深めて行ってほしい。スマートフォンなどのデジタル端末の安全な使い方について、保護者と教職員も理解を深めて行ってほしい。
- ・花背学習で地域について学び、誇りと自信をもてるよう、これからも取組を進めて行ってほしい。学校と連携し、地域の活性化において協力していきたい。